

それにいかに受け答えるかが問われる。他の学科でも、「グループを組んでの協同的問題解決」や「科学実験によるパフォーマンステスト」などの試験が工夫されている。

④ 入学前教育

ダビンチ入試の入学前教育はとても充実している。その内容は、右に示すように、合格者オリエンテーションに始まって、学力診断テスト、通信添削、テキストの購読、さらには個別学習相談会やメールによるサポートなど、非常に多岐にわたっている。個別学習相談会では、先輩の学生たちや添削指導の教員がマンツーマンで指導する。この入学前学習への参加状況と入学後の成績には相関関係が認められた（山本・内村，2011）。



入学前教育のメニュー

- 1) 合格者オリエンテーション
- 2) プレースメントテスト（数学・英語）
- 3) 通信添削指導，4教科×3回
英語（読解），日本語表現
数学（微積分），物理（力学）
- 4) テキスト購読（物理，日本語表現）
- 5) 個別学習相談会（3回）
- 6) 携帯メールを利用した通信や声かけ

たとえ不合格でも意味がある

受験生の感想からは、異口同音に「入試を受けて楽しかった。」という、意外な？声が聞かれる。不合格だった生徒からも「その後の受験勉強にヤル気が出た。受けて良かった。」という感想が出てくる。なぜだろうか？

多くの高校生たちは、模擬試験という単一の物差しによって序列化され続けている。そのため、自分の能力や特性を多面的にとらえる機会が少ない。しかし、生徒は、「活動の記録」や「志望理由」を

書く過程で、これまでの体験や努力を振り返り、これからの目標について考える。先生や親と話し合うこともあるだろう。そして、スクーリングで大学の学びを体験し、自分の能力を多様な観点から丁寧に評価される。また、不合格者に対するフォローメッセージがある。ダビンチ入試で落ちても一般入試で合格する者は多い。

ある受験生の感想

「ダビンチ入試を受けてみて、一番心に残ったのは、**すごく楽しかった**ということです。大学の教授の方々が、私たち高校生に教えてくださって、高校ではまた味わえない**大学の講義が体験できてとてもよい経験**でした。また、普段の勉強とはまったく関係のないことをみんなと一緒に考えて、それをディスカッションして、いろいろな人の考えを吸収できてとても勉強になりました。今回は入試だったんですが、**入試とは思えなくて、逆に良い勉強をさせて頂いたような気がしました。**とてもいい体験でした。」

高校と大学が一緒に

ダビンチ入試は、生徒・学生の成長を願い、「たとえ不合格でも受ける意味がある入試」

を目指してきた。そのために、14年前から毎年、入試研究会を開催している。毎回70～90名の高校教員が参加し、大学の入試と高校の進路指導の在り方について意見を交流しながら、双方で少しずつ改善を重ねてきた。入試制度改革は、あくまでも生徒・学生の成長を中心に据え、高校教育の改革、大学教育の改革と合わせて総合的に検討されなければならない。そのためには高校と大学の連携は不可欠である。

基礎基本+ α が必要

私がダビンチ入試や様々なテストに長年関わってきて実感するのは、(教科の知識だけに限定しない広義の)基礎基本の重要さである。たしかに、基礎基本なくして活用はない。しかし、将来に多くのリスクを抱える今日、基礎基本を習得しただけでは不十分な時代になってきた。学校で習っていない未知の事態に遭遇しても、知的に、果敢に、柔軟に対応できる必要がある。

そのため、ダビンチ入試では、高校までに習得した基礎知識に加えて、理解力、活用力、表現力、コミュニケーション力などの+ α の学力を測っている。ところが、これまでの入試では、教科書で習った知識に限定し、単一の正答を求めるようなテストが中心であり、こうした+ α の学力はほとんど測られてこなかった。その意味では、新しいテストが「合教科型」「総合型」へ移行することは望ましい。しかし、テストの内容が基礎基本を軽視するようなことにならないよう、注意する必要がある。そのバランスをどうとるか、具体的にどう測定するかについては、問題作成者の学力観や技量に依るところが大きい。また、複数回の実施という条件下でテストの信頼性を保証するのは、至難の業である。早期に教育評価の専門家を交えた検討が必要であろう。

引用

山本以和子・内村 浩 (2011).「AO入試入学者の学習活動追跡による傾向分析」 『大学入試研究ジャーナル』 **21**, pp.119-124

参考

◆ダビンチ入試のホームページ：<http://ac.web.kit.ac.jp/>

受験生向けにつくっています。アドバイスや合格者の体験談なども掲載しています。

◆ダビンチ入試の過去問：

http://www.kit.ac.jp/02/kakomon/kakomonndai_select2.htm

◆報告者のプロフィール：

博士(心理学)。広島大学理学部を卒業後、28年間の高校教員を経て、2004年より現任校。PISA, TIMSS, 教育課程実施状況調査, 大学入試センター試験, 法科大学院適性試験, 科学の甲子園などの委員を歴任。専門は、学習心理学, 理科教育, 教育評価。
メール hiro.uchimura@gmail.com